フェアプレイ教育に関する一考察

A study on Fair Play Education

1K05B186　　浜　大輔
指導教員　　主査　友添秀則先生　　副査　寒川恒夫先生

【本研究の動機】

私はこれまで中学・高校・大学でサッカーを行ってきた。その中で私はフェアプレイを心掛けてきた。しかし中にはアンフェアなプレイが多発し、楽しい試合とは程遠いものもたくさんあった。また、私自身フェアプレイを心掛けたと言っても、思わずファウルをしてしまうことなどがあった。私は将来教員としてフェアなスポーツを教えたい。そのためにはどのような授業を行えばよいのか疑問を持ち、本研究を行うこととした。

【本研究の目的】

・フェアプレイ教育の課題を明らかにする
・今後のフェアプレイ教育の在り方を具体的に明らかにする

【本研究の方法】

・本研究は文献の講読による。

【各章の概要】

【第一章　スポーツマンシップとフェアプレイの概念的検討】

第一章では、スポーツマンシップとフェアプレイの概念的検討を通して、本研究におけるフェアプレイの概念を操作的に定義した。

スポーツマンシップとフェアプレイは語源こそ異なるものの、英国のパブリック・スクールのスポーツにおいて強調されるようになった点で共通している。これらは永遠・絶対・不動の概念ではなく、論者によってもその意味内容は異なる。そのため、あらゆる時代や地域に妥当性を持つように本質的、包括的な定義をすることは不可能であり、本研究では H.Lenk らと滝沢のフェアプレイの定義を基礎に置くこととした。

また、スポーツマンシップやフェアプレイの概念には、イギリスの有閑階級のエートスとの強く結びついた差別的な概念であるとの批判がある。よって、教育者はこれらの批判を認識しつつ、新たなスポーツのフェアネスを創造していかなければならない。

【第二章　フェアプレイ教育に関する海外の実践の批判的検討】

第二章では、海外の実践の代表例としてカナダのフェアプレイ教育とダリル・シーデントップのスポーツ教育の実践について批判的に検討した。

前者では、フェアプレイに関する同意書や顕彰制度、フェアプレイに関する事象を学習課題とする方法などが行われている。

後者のフェアプレイに関する具体的な教授方略としては、フェアプレイ賞、フェアプレイを強化するアカウンタビリティ・システム、儀式形式の指導、明確なチーム選抜システムなどが提示されている。

両者はフェアプレイの内容を具体的に規定する点で共通している。これについて以下の 4 点から批判した。1)フェアプレイの精神の理解が欠落する、2)フェアプレイに関する多様な意見を無視する、3)現状のスポーツを盲目的に是認する体制護持的なスポーツ人を育てる、4)道徳性を損なう。

【第三章　日本の実践に見る改善策の検討】

第三章では、日本のフェアプレイ教育に関する

実践の検討を通して、海外の実践の問題点に対する改善策について示唆を得ようとした。主な実践として以下の 4 つを取り上げた。

・ボールゲームのグルーピングと環境づくりの実践
・グループづくりについて考えるリレー走の授業
・男女がともに楽しむためのルールづくりの実践
・荒れた生徒を巻き込んだサッカーの授業

【第四章　今後のフェアプレイ教育の在り方に関する一考察】

第四章では、これまでの内容を踏まえて、今後のフェアプレイ教育の在り方を具体的に明らかにしようとした。

まず、日本の実践のように、フェアプレイとその精神を創り出す学習が重要である。その方法としては、1)スポーツの文化の歴史とその背景にある思想を客観的に学ぶ学習、2)ルールづくりを通した学習、3) 公正なグルーピングを通した学習などが考えられる。これらに共通して留意すべき点として、以下の 5 点が挙げられる。

1) フェアプレイとその精神について教師が理解し、学習内容を意図的に仕組む。
2) 発達段階などを考慮しつつ、子どもたちに可能な限り主体的に考えさせる。
3) フェアプレイやフェアプレイの精神について多様な意見を認め、フェアプレイを創り出す姿勢を忘れない。
4) ルールづくりは、子どもたちがその必然性を認識し、自らの紛争解決能力に依存した形で行う。
5) スポーツ場面において子どもたちが抱えたトラブルや問題が起きた直後に行う。

また、勝利至上主義を緩和あるいはコントロール可能にすることなしに、スポーツ全体をフェアなものにすることはできない。よって、勝利至上主義に陥っているスポーツの現状、それを生み出す原因や解決策などについて子どもたちに伝えたり、子どもたちと考えたりすることが求められる。これは具体的には、体育理論の授業や総合的な学習の時間などで行うことができるだろう。

【結章　本研究の要約と今後の課題】

最後に本研究の要約と今後の課題について記した。

今後の課題は、フェアプレイ教育に関する実践の積み重ねによる具体的なカリキュラムの作成し、フェアプレイ教育を推進することである。